

第9回 作業療法ジャーナル研究助成

塩津裕康氏の「食事遂行技能の観察項目の選定に関する調査研究」に決定



受賞者 塩津裕康氏

先日、第9回 作業療法ジャーナル研究助成対象選考会が開かれ、塩津裕康氏の研究が選ばれた。塩津氏の研究テーマは「食事遂行技能の観察項目の選定に関する調査研究」である。助成期間は3年間であり、助成金額は30万円である。研究経過については、次年度の本誌に掲載する。

第9回研究助成を受けて

塩津 裕康

(介護老人保健施設 輝, 作業療法士)

このたび、第9回 作業療法ジャーナル研究助成の対象にいただきましたことを、「作業療法ジャーナル」編集委員、ならびに選考に携わっていただきましたすべての関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

研究テーマは「食事遂行技能の観察項目の選定に関する調査研究」です。食事と作業療法の関係は、日本作業療法士協会が認定する7番目の専門作業療法士として「専門作業療法士（摂食嚥下）」が誕生したことや、「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について（医政発 0430 第1号平成 22 年 4 月 30 日）」の局長通知によって、食事訓練を実施する際の吸引が認められたこと等、今後小児期から老年期までの幅広い分野において、OT が食事を支援する機会は増加すると考えます。

食事遂行において、食事動作と嚥下活動は切り離せないものですが、それぞれ別の評価方法が使用されているのが現状です。また、食事動作（先行期）は嚥下活動に影響を与えることがわかっており、食事動作と嚥下活動を包括的に評価することができれば、OT のリーズニングを助け、よりよい支援につながると考えます。

そのため、本研究では、食事の領域にかかわる OT を最大限サポートすることを念頭に置き、食事動作と嚥下機能を連結した包括的な観察評価方法を構築するために、その前段階として食事遂行上の観察項目の選定に関する調査（アンケート調査）を実施します。

この研究が、今後の作業療法の発展に寄与できるよう努力いたします。